

油絵制作

< 油絵制作の目標 >

- 1 混色を行う
- 2 明暗の表現
- 3 そのものらしい形、豊かな色味の表現

① キャンバスに鉛筆で下描きをする

油絵を描き始める前にまず鉛筆で下描きを行います。

この下描きをもとに絵を描いていくので時間をかけて丁寧に描きましょう。

ポイント

- (1) 物を大きく入れる。
- (2) 硬めの鉛筆を使い、下描きの線が濃くなりすぎないようにする。
- (3) 何度も直しながらじっくり形をとる。

② 油絵具による下塗り～その1～

油絵具のイエローオーカーとバーントシェンナを使って下塗りを行います。

まず、イエローオーカーをテレピンで水のようにうすく溶き、全体に塗っていきます。絵具の濃淡で陰影や色の濃い部分、うすい部分を表現してみましょう。

ある程度色がついてきたら、バーントシェンナを混ぜ、より暗い部分、色の濃い部分をさらに塗っていきます。

③ 油絵具による下塗り～その2～

今度は白色で明るい部分や色の白い部分を起こしていきます。

イエローオーカーやバーントシェンナを少し混ぜて色を調整したり、白のまま使用することで明るさに差をつけてみましょう。

④ 油絵具による上塗り

下塗りが乾燥したら、それぞれの物の色(固有色)を塗っていきます。

油絵具は一度に塗り重ねようとすると下に塗った色と上から塗る絵具が混ざり、うまく塗り重ねることができません。また、色が濁ってしまう原因にもなるので急がずにじっくり描いていきましょう。

ポイント

- (1) 混色してできるだけ多くの色をつくる。(混色に黒は使わない)
- (2) 物の色、模様、形などよく観察して描く。
- (3) 何度も絵具を塗り重ねるようにして、深みのある色味を表現する。

油絵の道具・材料

「筆」

＜ 豚毛の筆 ＞
油絵で使用する代表的な筆に豚毛の筆があります。豚毛は非常に硬い毛質で、キャンパスに描くために最適な筆です。
油絵の描き出しから最後の仕上げまで使用することができます。力強いタッチで描けるのが特徴です。

＜ ナイロンの筆 ＞

ナイロンの筆は柔らかい毛質で、適度の弾力がありとても扱いやすい筆です。油絵で使用する際は特に仕上げの作業に適しています。仕上げの段階で繊細に描きたい場合に使用するとよいでしょう。

「絵具」

＜ 油絵具 ＞

油絵では油絵具を使用します。油絵具の主な材料は色のついた粉である顔料と時間が経つと固まる性質をもつ乾性油という油でこれらを練り合わせて作られています。

特徴

- ・油を含むため、透明感がありとても伸びがよい。
- ・何度も塗り重ねることができるので、厚塗りにも適している。
- ・水が蒸発することで固まる水性の絵具と違い、空気中の酸素との化学反応で固まるため、乾燥に長い時間がかかる。

「油」

乾性油と揮発性油

油絵では絵具を溶くために専用の油を使用します。油絵で使用する油には揮発性油と乾性油の2種類があります。

＜ 揮発性油 ＞

テレピン、メトロールなど

特徴

- ・揮発性油は水彩絵の具でいえば水にあたるような油で、油絵具を溶かしサラサラにうすめることができる。
- ・揮発する性質をもった油で、揮発するときに絵具に含まれる油分も一緒に奪ってしまうので、これだけで使用すると絵具のつやが無くなりカサついた絵になってしまう。
- ・絵具を溶かす作用がある。

＜ 乾性油 ＞

リネードオイル、ポピーオイルなど

特徴

- ・乾性油は絵具に練り込まれている油で、酸素と結びついて固まる性質を持っている。
- ・絵具に混ぜると伸びをよくし、つやを与えることができる。

*揮発性油と乾性油は基本的に混ぜて使用します。はじめは揮発性油が多めで、徐々に乾性油の割合を増やしていきます。